

キロサイド注 20mg、40mg、60mg、100mg、200mg

【この薬は？】

販売名	キロサイド 注 20mg Cylocide Injection 20mg	キロサイド 注 40mg Cylocide Injection 40mg	キロサイド 注 60mg Cylocide Injection 60mg	キロサイド 注 100mg Cylocide Injection 100mg	キロサイド 注 200mg Cylocide Injection 200mg
一般名	シタラビン C y t a r a b i n e				
含有量 (1 mL 中)	20mg				

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗悪性腫瘍剤で、代謝拮抗剤と呼ばれるグループに属する注射薬です。
- ・この薬は、がん細胞のDNA合成を阻害することにより、がん細胞の増殖を抑制すると考えられています。
- ・次の病気の人に医療機関で使用されます。
 - 急性白血病（赤白血病、慢性骨髄性白血病の急性転化例を含む）
 - 消化器癌（胃癌、膵癌、肝癌、結腸癌等）、肺癌、乳癌、女性性器癌（子宮

癌等)等。ただし他の抗腫瘍剤(フルオロウラシル、マイトマイシンC、シクロホスファミド水和物、メトトレキサート、ビンクリスチン硫酸塩、ビンブラスチン硫酸塩等)と併用する場合に限る。

○膀胱腫瘍

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 患者さんまたは家族の方は、この薬の効果や注意すべき点について十分理解できるまで説明を受けてください。説明に同意をした場合に使用が開始されます。
- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にキロサイド注に含まれる成分で過敏症を経験したことがある人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・骨髄機能抑制のある人
 - ・感染症にかかっている人
 - ・腎臓に障害のある人
 - ・肝臓に障害のある人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬により眼症状(結膜炎、眼の痛み、羞明(しゅうめい:まぶしい)、眼脂(がんし:めやに)、結膜充血、角膜潰瘍など)があらわれることがあり、予防のために副腎皮質ホルモン点眼剤が使用されることがあります。
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

●**使用量および回数**

使用量は、あなたの体重または体表面積(身長と体重から計算)や症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

[急性白血病に対して使用する場合]

寛解導入	通常体重1kgあたり小児0.6~2.3mg、成人0.8~1.6mgを点滴またはワンショットで静脈内に注射します。通常2~3週間連続して使用します。
維持療法	<p>【皮下・筋肉内投与】 通常体重1kgあたり小児0.6~2.3mg、成人0.8~1.6mgを皮下、筋肉内に注射します。週に1回行われます。</p> <p>【静脈内投与】 通常体重1kgあたり小児0.6~2.3mg、成人0.8~1.6mgを点滴またはワンショットで静脈内に注射します。通常2~3週間連続して使用します。</p>
シタラビン少量療法	通常成人1回10~20mgを1日2回または体表面積1m ² あたり20mgを1日1回、10~14日間皮下または

	静脈内に注射します。
髄腔内化学療法	通常1回25～40mgを1週間に1～2回髄腔内に注射します。 小児には年齢・体格等に応じて投与量を調節します。

〔消化器癌、肺癌、乳癌、女性性器癌等に対して他の抗腫瘍剤と併用して使用する場合〕

静脈内注射	通常体重1kgあたり0.2～0.8mgを1週間に1～2回点滴またはワンショットで静脈内に注射します。
局所動脈内注射	通常体重1kgあたり0.2～0.4mgを持続注入ポンプで動脈内に注射します。

〔膀胱腫瘍に対して使用する場合〕

単独で使用する場合	通常200～400mgを1日1回または週2～3回膀胱内に注入します。
他の抗腫瘍剤と併用する場合	通常100～300mgを1日1回または週2～3回膀胱内に注入します。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・この薬により骨髄機能抑制（身体がだるい、発熱、出血しやすい、息切れなど）などの重篤な副作用があらわれることがあります。このため、頻回に検査（血液検査、肝機能・腎機能検査など）が行われることがあります。長期間使用すると副作用が強くあらわれ、長く続くことがあります。
- ・身体の抵抗力が弱まり、かぜなどの感染症にかかりやすくなる場合があります。人ごみを避けたり、外出後は手洗いやうがいなどをしたり、感染症にかからないように気をつけてください。
- ・出血しやすくなる場合があります。出血傾向（歯ぐきの出血、出血が止まりにくい、あおあざができる、鼻血など）の症状があらわれた場合には、すぐに医師に相談してください。
- ・この薬に特有の副作用として眼症状（結膜炎、目の痛み、羞明、眼脂、結膜充血、角膜潰瘍など）や皮膚症状（手足末端に発疹、発赤、しばしば強い痛みを伴う赤い発疹など）があらわれることがあります。このような症状は、副腎皮質ホルモン剤（ステロイド）により軽減することができます。
- ・妊娠する可能性がある女性およびパートナーが妊娠する可能性がある男性は、この薬を使用している間および使用終了から一定期間は適切な避妊を行ってください。
小児や生殖可能な年齢の人にこの薬を使用する場合には、性腺に対する影響を考慮して使用されます。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳中の方は医師に相談してください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください。重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
骨髄機能抑制に伴う血液障害 こつずいきのうよくせいにともなうけつえきしょうがい	発熱、寒気、喉の痛み、鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、頭が重い、動悸（どうき）、息切れ 【汎血球減少】 めまい、鼻血、耳鳴り、歯ぐきの出血、息切れ、動悸、あおあざができる、出血しやすい、発熱、寒気、喉の痛み 【白血球減少】 突然の高熱、寒気、喉の痛み 【血小板減少】 鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい 【貧血】 体がだるい、めまい、頭痛、耳鳴り、動悸、息切れ
ショック	冷汗が出る、めまい、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる、意識の消失
消化管障害 しょうかかんしょうがい	胸やけ、吐き気、嘔吐（おうと）、吐いた物に血が混じる（鮮紅色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、黒い便が出る 【消化管潰瘍】 吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、腹痛、胃がむかむかする、黒い便が出る 【消化管出血】 吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、腹痛、便に血が混じる、黒い便が出る
急性呼吸促迫症候群 きゅうせいこきゅうそくはくしょうこうぐん	息苦しい、咳、痰、呼吸がはやくなる、脈が速くなる、手足の爪が青紫～暗紫色になる、唇が青紫色になる
間質性肺炎 かんしつせいはいえん	咳、息切れ、息苦しい、発熱
急性心膜炎 きゅうせいしんまくえん	体がだるい、発熱、息苦しい、息切れ、動悸、胸の痛み、むくみ
心のう液貯留 しんのうえきちよりゅう	体がだるい、息苦しい、息切れ、むくみ、血圧低下
中枢神経系障害 ちゅうすうしんけいけいしょうがい	頭の痛み、しゃべりにくい、手足のふるえ、集中力の低下、物事が思い出せない・覚えられない 【脳症（白質脳症を含む）】 意識の低下、意識の消失、考える力の低下、記憶力の低下、異常な行動、けいれん、自分の意思とは関係な

重大な副作用	主な自覚症状
	<p>く身体が動く、歩行時のふらつき、口のもつれ、動作が鈍くなる</p> <p>【麻痺】 手足が動かない、上手くしゃべれない、温度や痛みを感じない、運動や感覚の機能が低下する</p> <p>【痙攣】 顔や手足の筋肉がぴくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える</p> <p>【小脳失調】 手足のふるえ、歩行時のふらつき</p> <p>【意識障害】 意識の低下、意識の消失</p>
シタラビン症候群 シタラビンしょうこうぐん	発熱、筋肉の痛み、骨の痛み、発疹、胸の痛み、胸の鈍い痛み、目の充血、目やに、目の痛み、体がだるい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、寒気、出血が止まりにくい、出血しやすい、突然の高熱、体がだるい、冷汗が出る、むくみ、けいれん、自分の意思とは関係なく身体が動く、動作が鈍くなる、温度や痛みを感じない、運動や感覚の機能が低下する、顔や手足の筋肉がぴくつく、骨の痛み、
頭部	頭が重い、めまい、頭痛、意識の消失、頭の痛み、集中力の低下、物事が思い出せない・覚えられない、意識の低下、考える力の低下、記憶力の低下、異常な行動、上手くしゃべれない、一時的にボーっとする
顔面	鼻血、顔面蒼白
眼	目の充血、目やに、目の痛み
耳	耳鳴り
口や喉	喉の痛み、歯ぐきの出血、吐き気、嘔吐、吐いた物に血が混じる（鮮紅色～茶褐色または黒褐色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色ときに黒色）、吐いた物に血が混じる（赤色～茶褐色または黒褐色）、咳、痰、唇が青紫色になる、しゃべりにくい、口のもつれ
胸部	動悸、息切れ、胸やけ、息苦しい、呼吸がはやくなる、胸の痛み、胸の鈍い痛み
腹部	腹痛、胃がむかむかする
手・足	手足が冷たくなる、脈が速くなる、手足の爪が

部位	自覚症状
	青紫～暗紫色になる、手足のふるえ、歩行時のふらつき、手足が動かない、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える
皮膚	あおあざができる、発疹
筋肉	筋肉の痛み
便	黒い便が出る、便に血が混じる
その他	血圧低下

【この薬の形は？】

販売名	キロサイド 注 20mg	キロサイド 注 40mg	キロサイド 注 60mg	キロサイド 注 100mg	キロサイド 注 200mg
性状	無色の澄明な注射液				
形状					

【この薬に含まれているのは？】

販売名	キロサイド 注 20mg	キロサイド 注 40mg	キロサイド 注 60mg	キロサイド 注 100mg	キロサイド 注 200mg
有効成分	シタラビン				
添加物	塩化ナトリウム				

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。

・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：日本新薬株式会社 (<https://www.nippon-shinyaku.co.jp/>)

製品情報担当

電話番号：0120-321-822

(一般の方・患者様向け)

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)